

教材・教具の紹介

小集団学習場面における特別な教育的ニーズのある児童の
他者との係わりの変化を促すための支援課題（その2）

石田 脩介*・植村 祥子**・小出 芽以**・大庭 重治***・池田 吉史***・八島 猛***

1 問題と目的

特別な教育的ニーズのある児童が主体的に学習を進めるためには、支援者や他児との良好なコミュニケーションの獲得が期待される。特に学習場面では、児童間にみられる援助要請、援助提供、相互学習が円滑に行われることが課題解決の一助になるばかりか、児童の理解の促進にもつながる。このような係わりの状況は、学習場面において扱われる課題の特性によって大きく変化するため、様々な課題を活用した支援実践を積み重ね、期待される効果を得ることができる課題を開発していくことが必要であり、その試みがなされている（石田・川住・植村・大庭・池田・八島, 2015; 小林・中村・加藤・大庭・池田・八島, 2015）。

このような支援課題のタイプのひとつとして、情報統合型課題（仮屋園・川野・綿巻・丸野, 2004）がある。情報統合型課題は、集団の構成員が異なる情報を持ち、それらの情報を持ち寄ることによって何らかの課題を解決していくタイプの課題である。情報統合型課題では、情報が各構成員に分配されるため、全員が課題解決に参加して情報を出し合うことにより、はじめて課題解決がなされることになる。また、特別な教育的ニーズのある児童を含む集団において情報統合型課題を実施する際には、学習形態として小集団学習場面を設定する必要がある。小集団学習場面は、「他者」と「事物」を意図的、計画的に組織できる場面であり、特別な教育的ニーズのある児童と周囲を結ぶ仲介者を配置することができるため（大庭・葉石・八島・山本・菅野・長谷川, 2012）、その係わりを促す手だてを多面的に講じることが可能となる。

本研究は、特別な教育的ニーズのある児童を含む小集団において情報統合型課題を実施し、課題遂行時の係わりの様子を分析することにより、児童のかかわりを促すために有効な支援課題を作成することを目的とした。

2 方法

1) 対象児

1～6年生の児童29名（男子15名、女子14名）を対象とした。読み書き・算数・コミュニケーションに対する特別な教育的ニーズの訴えがあった。

2) 作成した支援課題

大庭ら（2012）を参考にして主指導者MT（Main Teacher）と補助指導者ST（Sub Teacher）が関与する小集団学習場面を設定

し、「寿司置きねえ!」という課題への関与の状況を観察した。
3) 課題の内容と実施手続き

「寿司置きねえ!」は、回転ずしのレーンが描かれた「寿司置きねえ!シート」（Fig.1）において、どの寿司ネタがどの位置に来るのかを当てる課題である。寿司ネタは12種類あり、「〇〇は200円です」といった、情報がかけられた「情報カード」（Fig.2）の情報をもちよることで解決を目指した。児童の役割としては、リーダー、副リーダー、ヒント係、タイムキーパーを設定した。また、1年生の児童にはスペシャルヒントをもらうチャンスが特別に用意された。

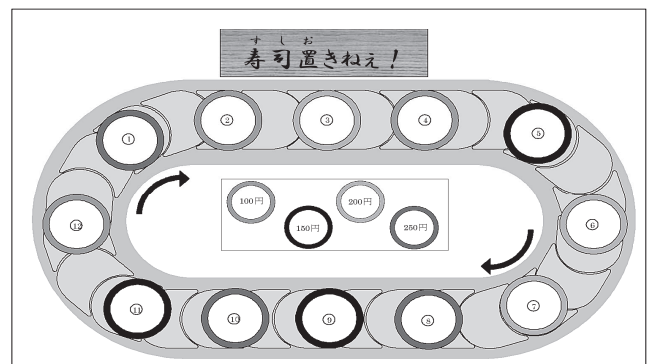


Fig.1 寿司ネタを配置する「寿司置きねえ!シート」
実際のシートでは皿は色分けされており、その色によって各皿の値段がわかるようになっている

<p>マグロ</p> <p>にぎ けい 握り系</p> <p>あかみ 赤身</p>	<p>ヒラメ</p> <p>にぎ けい 握り系</p> <p>しろみ 白身</p>
<p>情報1</p> <p>追加情報×</p>	<p>情報2</p> <p>追加情報×</p> <p>ヒラメは、おな しろみ のタイと値段 が一緒です。</p>
<p>たまご</p> <p>にぎ けい 握り系</p> <p>たまごけい 卵系</p>	<p>プリン</p> <p>デザート系</p>
<p>情報3</p> <p>追加情報○</p> <p>ひと まえ ひと うし たまごの一つ前にも、一つ後ろに あかみ まわ 赤身が回っています。</p>	<p>情報4</p> <p>追加情報×</p>

Fig.2 寿司ネタが配置される位置を特定するための「情報カード」の一部
実際のカードは彩色されている

* 兵庫教育大学大学院連合学校教育研究科

** 上越教育大学大学院学校教育研究科特別支援教育コース

*** 上越教育大学大学院学校教育研究科

情報カードは、読み上げてもよいが他者には見せてはいけな
いこと、また2～3人からなるパディ（同グループの異学年の
メンバーにより構成され、MTとSTの協議によって決定した）
の間では見せ合うことができることをルールとした。

課題の流れとしては、まずヒント係を誰がやるのかを決め、
「情報カテゴリーシート」（Fig.3）をもとに、グループ内にお
いて誰が何番の情報を担当するかを決めた。その後、互いに担
当した情報と、追加情報・スペシャルヒントを活用しながら課
題解決を目指した。

番号	難易度	重要度	形式	追加情報	もらう人
1	マグロ	☆	絵	×	
2	ヒラメ	☆☆	字	×	
3	たまご	☆☆	字	○	
4	プリン	☆	絵	×	
5	鉄火巻	☆☆☆	字	×	
6	ウニ	☆☆☆	絵	○	
7	タイ	☆☆	絵	○	
8	イクラ	☆☆	字	×	
9	河童巻	☆	絵	○	
10	メロン	☆☆☆	絵	×	
11	大トロ	☆	字	○	
12	サーモン	☆☆☆	字	○	

Fig.3 担当する情報を決めるための「情報カテゴリーシート」

3 結果と考察

「寿司置きねえ！」においては、課題解決時だけではなく、
「情報カテゴリーシート」を用いてどの情報を誰が担当するの
かを決める場面においても相談を行う様子がみられた。また、
ヒントをどのタイミングで使うのかについても意見が活発に交
換されていた。1年生のみが使えるヒントを用意したことによ
って1年生が活躍できる場が作られるとともに、上級生が下級
生の活動状況をより意識することができていた。特に、絵によ
る情報を提示したことにより、その読み取り方についてパディ
間で相談し、教えあう場面が見られた。

これらのことから、特別な教育的ニーズのある児童間の援助
提供、援助要請、相互学習という係わりの変化を促すための支
援課題は、様々な特性をもつ児童がそれぞれの力を発揮でき、
他者と協力して、助け合いながら解決を目指せる課題であるこ
とが必要であるといえる。また、寿司ネタの絵のように、視覚
的な手掛りが提供されている情報について相談する場面を設定
することで、より一層係わりが促されると考えられた。

付 記

本研究の内容は、上越教育大学特別支援教育実践研究センタ
ー主催「第4回特別支援教育実践研究発表会」においてポスタ
ー発表により公表した。また、研究の一部は、上越教育大学研
究プロジェクト（一般研究）による助成を受けた。

文 献

- 石田脩介・川住文博・植村祥子・大庭重治・池田吉史・八島猛
（2015）小集団学習場面における特別な教育的ニーズのある
児童の他者との係わりの変化を促すための支援課題，上越教
育大学特別支援教育実践研究センター紀要，21，63-64.
仮屋園明彦・川野浩太郎・綿巻徹・丸野俊一（2004）議論過程
における一般協同問題解決方略の有効性，鹿児島大学教育学
部研究紀要，55，195-267.
小林里美・中村潤一郎・加藤裕貴・大庭重治・池田吉史・八島
猛（2015）小集団学習場面における特別な教育的ニーズのあ
る児童の自己表現の変容を促すための支援課題，上越教育大
学特別支援教育実践研究センター紀要，21，65-66.
大庭重治・葉石光一・八島猛・山本詩織・菅野泉・長谷川桂
（2012）小集団を活用した特別な教育的ニーズのある子ども
の学習支援，上越教育大学特別支援教育実践研究センター紀
要，18，29-34.